



ヤコブとシーレム

だい10しょう



— ーファイはしめ前に、きろくをのせたはんを弟のヤコブにた
— くしました。ヤコブは正しい人でした。(モルモン書ヤコブ
1：1-2, 8)



ニーファイはヤコブに、イエス・キリストをしんじる人びとのた
めになることを書くように言いました。(モルモン書ヤコブ1：4-
6)



そして教会のさいしとなり、ニーファイのたみに神のことはを教
える力をヤコブにさずけました。(モルモン書ヤコブ1：18)



ニーファイがしんで、ニーファイ人の中にはわるい人が多くなり
ました。ヤコブは、人びとの行いがわるいことを教え、くいあらた
めるように言いました。(モルモン書ヤコブ1：15-17)



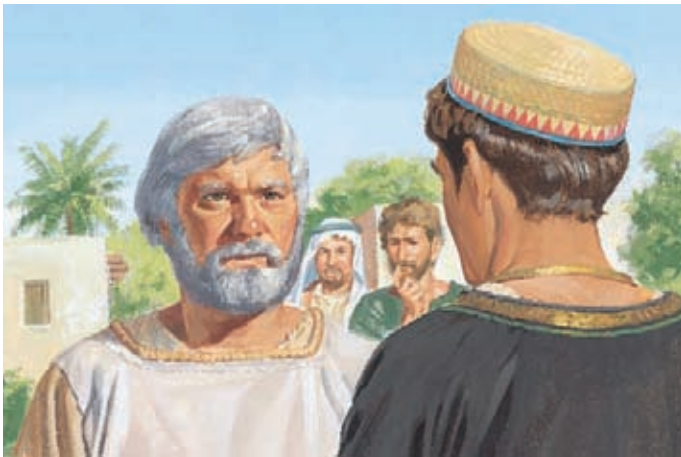
さて、シーレムというあくにんがニーファイ人の中に来て、イエ
ス・キリストをしんじてはいけないと言いました。(モルモン書ヤ
コブ7：1-2)



シーレムは、「イエスなんかいない」と人びとに教えました。多くのおおの人がシーレムを信じました。(モルモン書ヤコブ7:2-3)



ヤコブは人びとに、キリストを信じようと教えました。しかしシーレムは、ヤコブを言いこめようとして、「キリストはいない」と話しました。(モルモン書ヤコブ7:6)



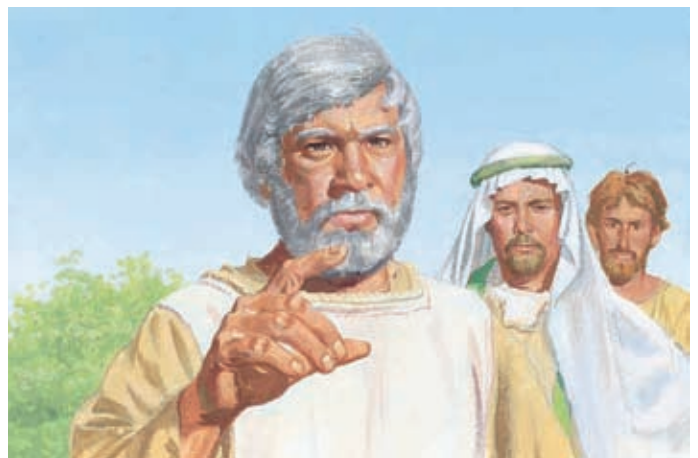
しかし、ヤコブのイエス・キリストへのしんこうはぐらつきませんでした。ヤコブはすでにてんしを見、主の声を聞いて、イエスが来られることを知っていたのです。(モルモン書ヤコブ7:5)



せいれいがヤコブとともにいてくださったので、ヤコブはシーレムに、イエス・キリストのあかしをのべました。(モルモン書ヤコブ7:8-12)



シーレムは、「それならしるしを見せてもらいたい」と言いました。神がいらっしゃることを、ヤコブにしょうめいさせ、きせきを見ようとしたのです。(モルモン書ヤコブ7:13)



しかし、ヤコブは神にしろしをもとめようとはしませんでした。ヤコブはシーレムにこう言いました。「あなたはすでにわたしが教えたことが正しいと知っています。」(モルモン書ヤコブ7:14)



「神がもしあなたをうちやぶろうと思われたならば、それが神の力です」とヤコブはシーレムに言いました。(モルモン書ヤコブ7：14)



するとすぐに、シーレムはじめんにたおれ、何日も、おき上がることができませんでした。(モルモン書ヤコブ7：15)



体が弱ったシーレムは、自分のしが近いことをさと、人びとをよびあつめました。(モルモン書ヤコブ7：16)



シーレムは自分がうそを言ったことをこくはくし、人びとにイエス・キリストを信じるように言いました。(モルモン書ヤコブ7：17-19)



このように言って、シーレムはしにました。人びとは神の力にうたれて、じめんにたおれました。(モルモン書ヤコブ7：20-21)



人びとはくいあらためるようになり、せいぶんを読み、あいをもってへいわにくらすようになりました。これは、ヤコブにはうれしいことでした。神がいのりを聞きとどけてくださったからです。(モルモン書ヤコブ7：22-23)